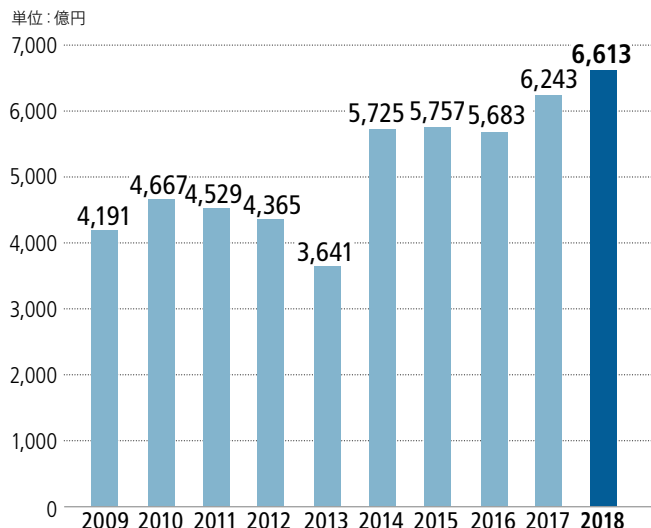


## 財務

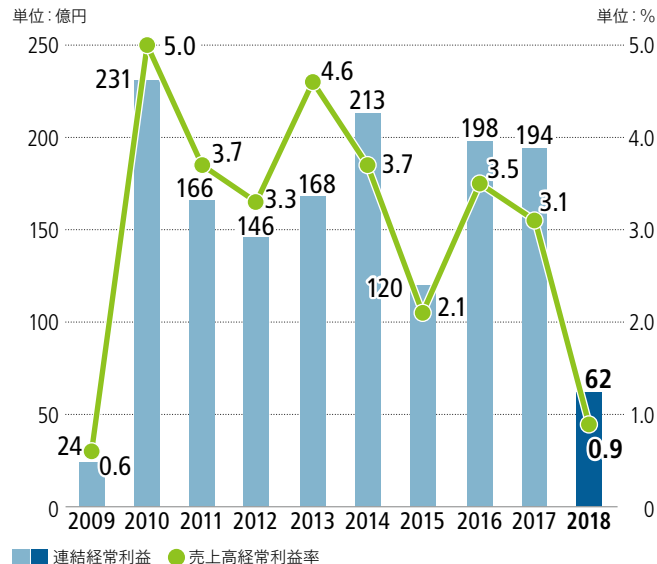
### 収益性

#### 連結売上高



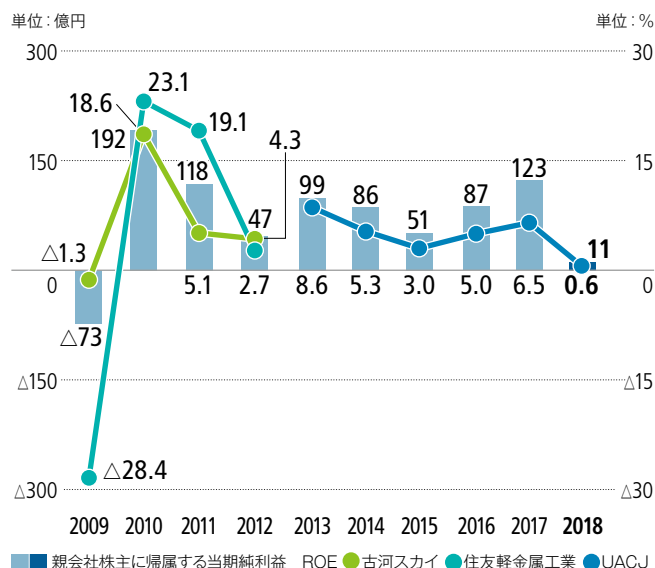
当社製品の販売価格は「地金価格+加工賃」に相当するため、売上高は地金市況の影響を受けます。2018年度は、販売数量が前年度を上回ったことに加え、地金価格の上昇もあり、増収となりました。

#### 連結経常利益／売上高経常利益率



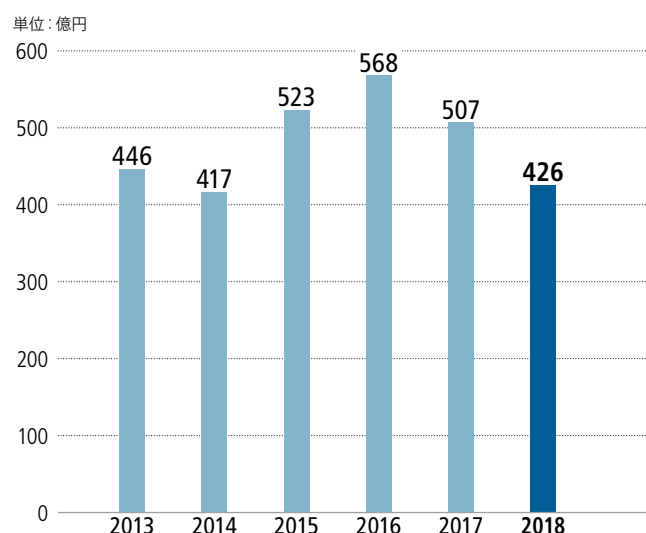
経常利益は、2018年度後半からの地金価格の下落によって、棚卸評価関係が悪化しました。さらに、エネルギー価格の上昇に加え、米中貿易摩擦や中国経済の減速にともなう液晶・半導体製造装置向け厚板など主力製品の販売低調、国内での自然災害等による操業率の低下などの影響によって、減益となりました。

#### 親会社株主に帰属する当期純利益／ROE



2018年度は、経常利益の減少にともない、親会社株主に帰属する当期純利益も減益となり、ROEも低下しました。

#### Adjusted EBITDA<sup>\*1</sup>

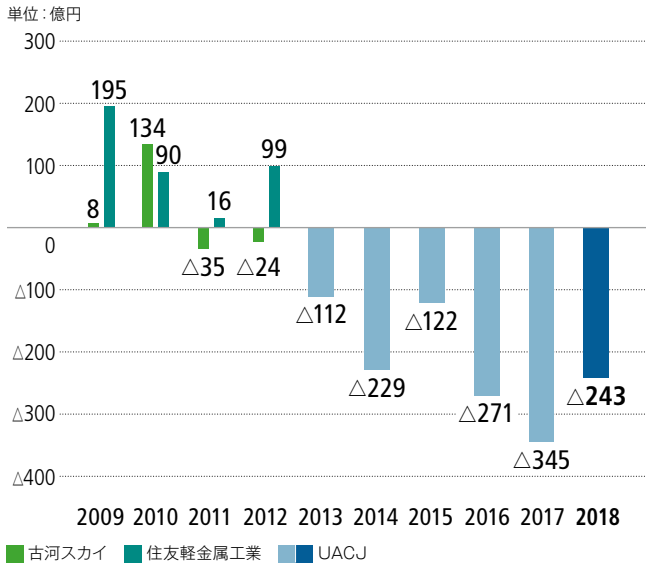


Adjusted EBITDAは、EBITDAから地金価格の変動にともなう棚卸評価関係を控除したもので、UACJは実力ベースの収益性指標としています。2018年度は、エネルギー価格の上昇に加え、液晶・半導体製造装置向け厚板など主力製品の販売低調、国内での自然災害等による操業率の低下などの影響によって、減益となりました。  
<sup>\*1</sup> Adjusted EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費-棚卸評価関係

注1：数値はいずれも四捨五入しています。4月1日から3月31日までの事業期間を年度として定めています。2018年度は、2019年3月末で終了した事業年度を表します。2013年度より、期末日満期手形等の会計処理を変更しましたが、2012年度以前の主要な経営指標等については遡及処理前の数値を記載しています。2012年度以前は旧古河スカイと旧住友軽金属工業の単純合計です。2013年度上半期は旧両社合算、下半期はUACJの業績数値を記載しています。

## 安全性・成長への投資

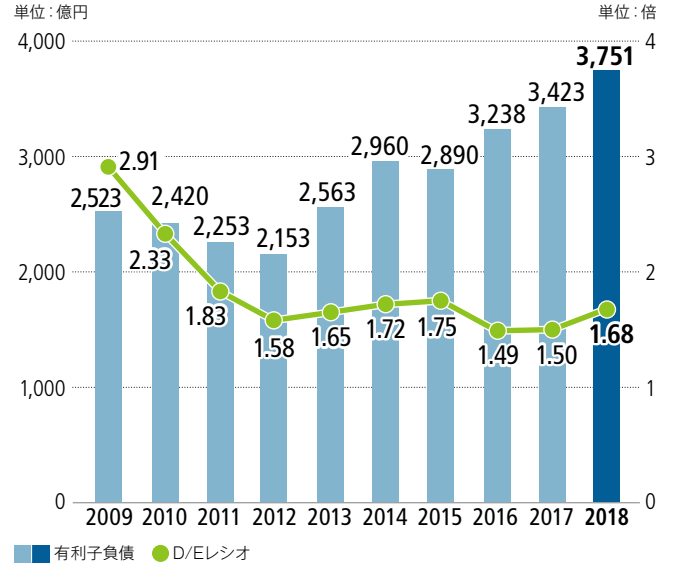
### フリー・キャッシュ・フロー※2



グローバルな規模での成長に向けた投資を継続しているため、フリー・キャッシュ・フローは2013年度からマイナスが続いています。今後は「戦略的な投資」と「財務の健全性」とのバランスに配慮しながら経営を推進していきます。

※2 フリー・キャッシュ・フロー＝営業キャッシュ・フロー＋投資キャッシュ・フロー

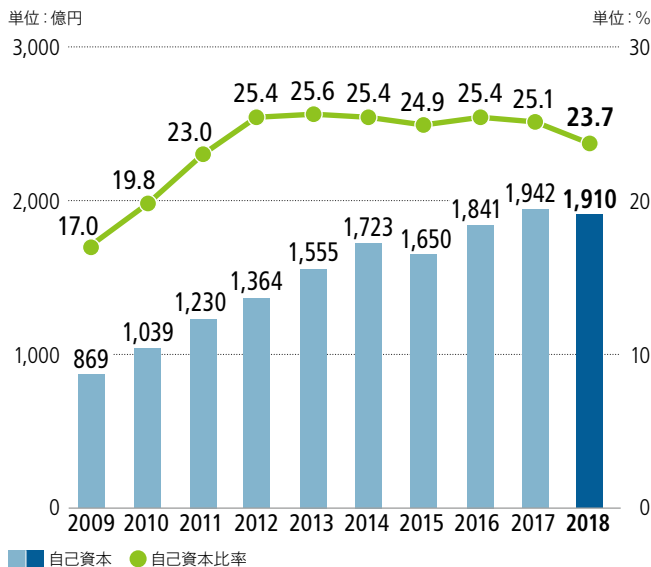
### 有利子負債／D/Eレシオ



積極的な成長投資を継続しているため有利子負債は増加し、D/Eレシオも1.68倍となりました。

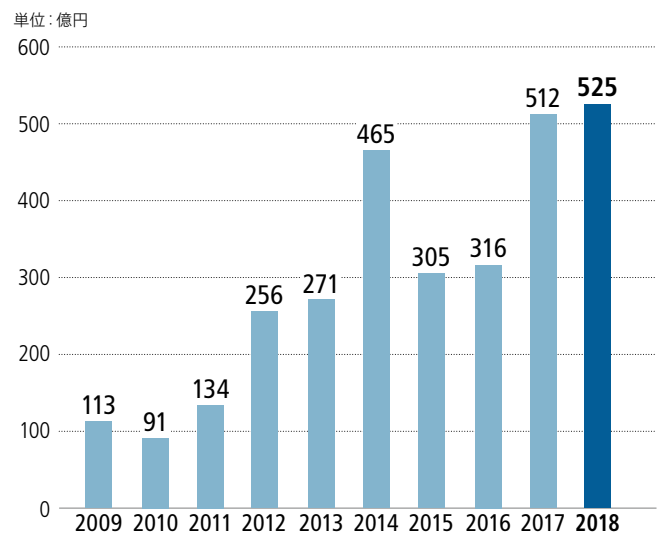
注2：2016年度以降のD/Eレシオは、劣後ローンの資本性考慮後

### 自己資本／自己資本比率



自己資本は、親会社株主に帰属する当期純利益の減少にともない減少しました。自己資本比率も有利子負債の増加によって前年度から低下しました。

### 設備投資

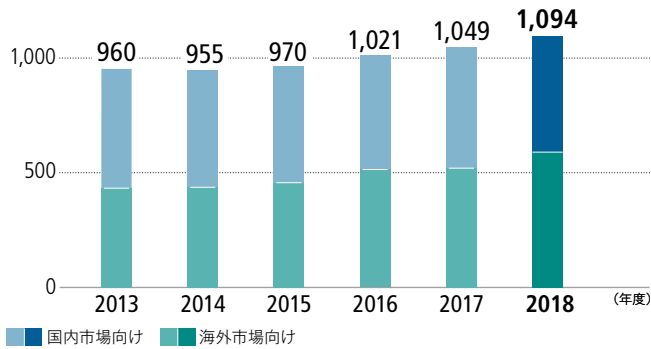


2018年度は、主に米国のローガン工場の鋳造・冷間圧延設備、タイのラヨン製造所の第3期投資、日本の福井製造所の自動車用パネル材生産設備を新設したことによって増加しました。

アルミニウム板 売上数量の内訳

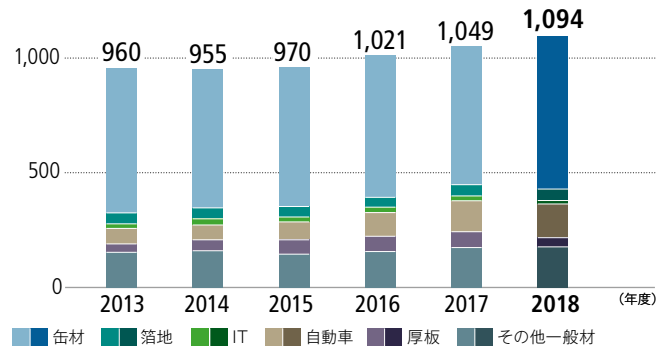
アルミニウム板 売上数量

単位：千t  
1,500



アルミニウム板 品種別売上数量

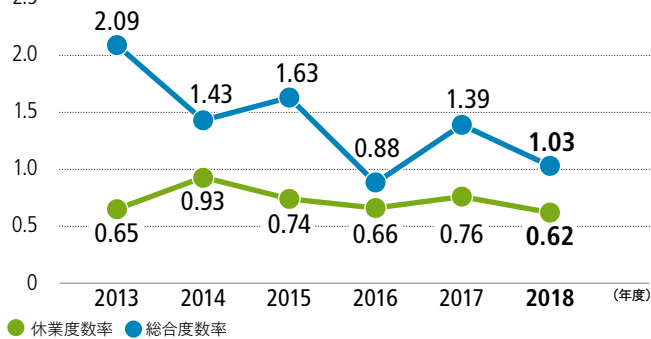
単位：千t  
1,500



非財務

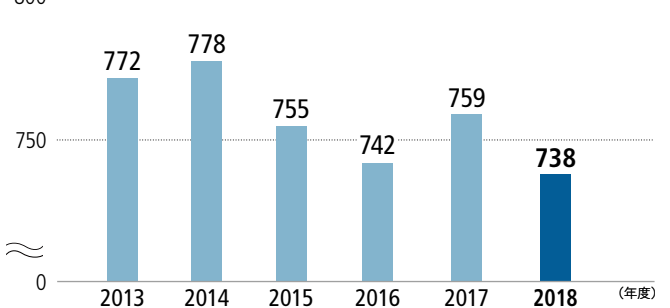
労働災害の発生状況

単位：—  
2.5



CO<sub>2</sub>排出量<sup>※3</sup>

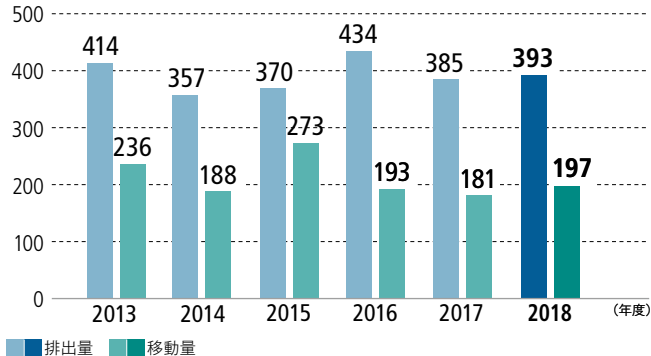
単位：千t-CO<sub>2</sub>/年  
800



PRTR物質の排出量、移動量<sup>※3</sup>

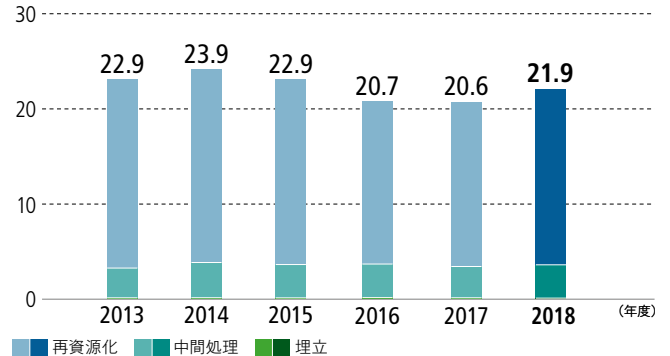
(製品中の含有元素であるマンガン、クロム、ニッケル、鉛を含む)

単位：t/年  
500



産業廃棄物量<sup>※3</sup>

単位：千t/年  
30



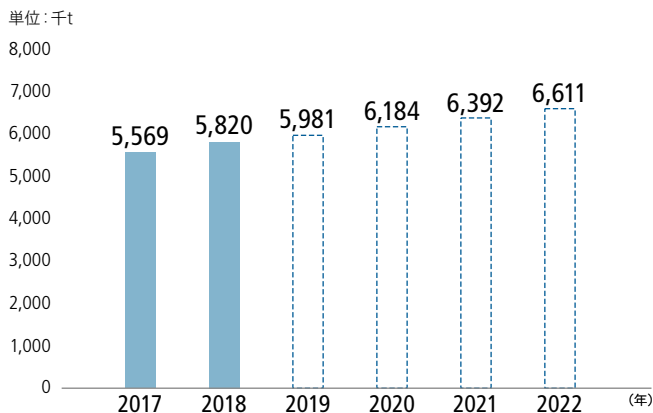
注：4月1日から3月31日までの事業期間を年度として定めています。2018年度は、2019年3月末で終了した事業年度を表します。

2013年度上半期の数値は旧古河スカイと旧住友軽金属工業の合算、下半期はUACJの業績数値を記載しています。

※3 集計範囲：UACJ(名古屋、福井、深谷、日光)、UACJカラーアルミ、UACJ押出加工名古屋(名古屋、安城)、UACJ押出加工小山、UACJ押出加工群馬、UACJ押出加工滋賀、UACJ鋳鉄、UACJ製箔(滋賀、野木、伊勢崎)、UACJ銅管

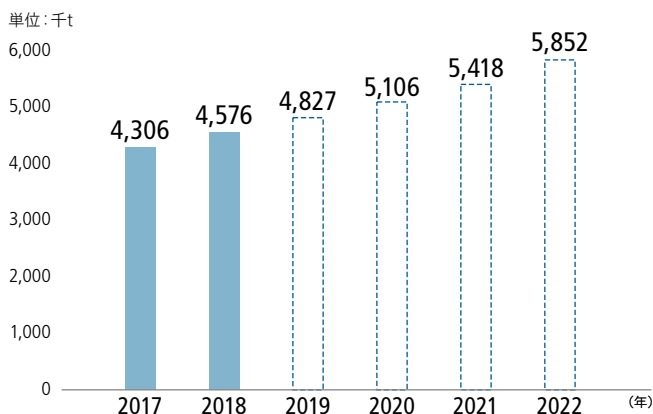
## 市場データ

### 世界の右向けアルミニウム板需要予測



出典：CRU Aluminium Rolled Products Market Outlook May 2018

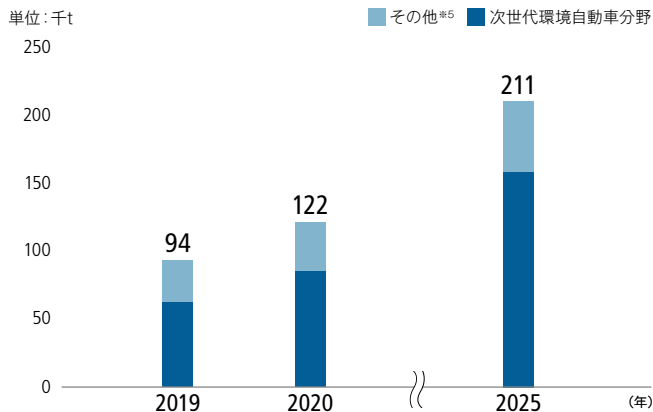
### 世界の輸送※4向けアルミニウム板需要予測



※4 自動車・航空機・船舶などの総称

出典：CRU Aluminium Rolled Products Market Outlook May 2018

### 世界のリチウムイオン二次電池正極集電体大型用途分野の市場規模予測



※5 大型用途分野合計のうち、電力貯蔵分野、動力分野、その他用途(家電ほか)の合計  
出典：富士経済「エネルギー-大型二次電池-材料の将来展望 2017-エネルギーデバイス編」

## 目次

### UACJはどんな会社か

- 1 UACJの歴史
- 3 UACJのグローバルネットワーク
- 5 UACJの価値創造プロセス
- 7 財務・非財務ハイライト

### UACJの戦略

- 11 トップメッセージ
- 15 中期経営計画の進捗と活動ハイライト

### UACJの今

- 19 特集  
**アジア最大級のアルミニウム工場として本格稼働が進むUATH**

### 23 At a Glance

### エリア別報告

- 25 北米
- 27 タイ・その他
- 28 日本

### 企業価値の源泉

- 29 研究開発

### ESG情報

- 31 環境への取り組み
- 33 社会への取り組み
- 35 コーポレート・ガバナンス
- 39 役員一覧

### 財務・業績報告

- 43 経理部担当役員メッセージ
- 45 10年間データ
- 47 財政状況および経営成績の分析(連結ベース)
- 51 連結財務諸表
- 55 会社情報/株式情報
- 57 FAQ(よくあるご質問)

### UACJ Report 2019の位置づけ



「UACJ Report 2019」では、業績および営業概況、今後の戦略などの財務情報に加え、CSR活動などの非財務情報を総合的に報告した「統合レポート」として編集しています。編集にあたっては、国際統合報告評議会(IIRC)が2013年12月に発表した「国際統合報告フレームワークver.1.0」などを参考にしました。また、ウェブサイトでは、IRサイト、CSRサイトにリンクさせ、詳細な情報を入手できるようにしています。

### 将来の見通しについて

当資料に掲載している情報の一部には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は環境の変化などにより、実際の結果と異なる可能性があることにご留意ください。